

竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

最期の願い

先日、ある興味深い話を聞きました。ある大学教授が新入生にアンケート調査を行いました。彼は講義で人間学を教えており、学生達がこれからの大学生活で学ぶ事を基に将来どうなりたいかを調査する為のものでした。いくつかの質問をした最後にある問いに対する記述を求めました。いくつ「あなたが明日死んでしまうとします。友人に葬儀での弔辞の朗読を依頼しなければなりません。どのような事を言って欲しいですか？内容を具体的に書きなさい」というものです。

学生達は何と言って欲しいと答えたのでしょうか。皆さんはいかがですか？ご自分の事として考えてみて下さい。例えば「故人は〇〇大学を出られて〇〇会社に就職して子供を〇人育てた」でしょうか？また「故人は仕事で〇〇のような業績を上げた」でしょうか？あるいは「〇〇のような著名な友人が居た」でしょうか？私は僧侶ですので当然数多くの弔辞を聞く機会がありました。大体は前述の物と同様の文言でした。これらは弔辞と言うよりは「故人の紹介」ですね。教授は比較の為に中年のグループ、老年のグループの人達にも同様の調査をしていました。その結果は3つのグループともほぼ同様の内容の回答が得られたのでした。

問いの回答は概ね次のような内容でした。「私が仕事の事で困っていた時に故人が助けてくれた。本当にありがとう」とか「私が進路で迷っている時相談に乗ってもらい決断できた。あなたのお陰で今がある」また「家庭の問題で悩んでいた時に適切な助言をしてくれた。感謝している」といった自分への感謝の言葉を述べて貰いたいといったものが大多数でした。そうした上で最後は自分の死を悼んで涙して欲しいというものでした。

仏説雑阿含経の中には「自分自身の体」「財産、名声」「眷属、朋友」などはいくら恩愛の情が深かろうが死後連れ去る事はできない。ただ正しさを求める心のみが身に随うとあります。我々、最後の最後、後世へは他人からの感謝された想いと自らの菩提心しか持ち去り得ないという事でありませぬ。

「全体会」

施設長 川原 江美



舜虹苑では、年度初めに全職員が集まり全体会を開催しています。職員は円になり、新人職員や異動職員の紹介の後、全員が一言ずつ今年度の目標を発表します。仕事に関することやプライベートなことなど様々ですが、この一年、何に取り組んでいくのかを職員の前で発表することで「達成する」という意識が強くなります。また、他職員の目標を聞くことで、個人を知ることができ、仲間意識が強まります。私は舜虹苑を利用して良かったと利用者様や御家族様に思ってもらえる支援を行うこと、そして、職員が誰一人欠けることなく年度末を迎えることを挙げました。



「新人職員紹介」



ケアワーカー

木村 若菜



ケアワーカー

三崎 愛理



看護師

井原 章博

「苑内行事」



利用者様のリクエストで「しゃぶしゃぶ」を食べに行きました。

「ケアハウス便り」



お花見は雨だったので食堂でお花見弁当で乾杯しました。



調理クラブでぼたもちを作りました。



仏生山公園でお花見



社会福祉法人竜雲学園
竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
短期入所サービス
通所介護サービス
認知症型通所サービス
老人介護支援センター
ケアハウス

高松市仏生山町
甲 3100 番地 2

TEL:087-888-5800
FAX:087-889-1004

「交通安全講習を受講して」

デイサービス生活相談員

西村 晶子



3月15日舜虹苑にて日頃から送迎業務のある職員が集まりJAF安全運転講習会を行いました。安全に運転するにはと題して何を気をつけたら良いかを考える良い機会となりました。今回は特に「死角」についての体験とDVD視聴をすることで危険箇所を再認識することができました。今回学んだ事を生かし、安全運転に努めていきたいと思えます。

